

学会名

リハビリテーション・ケア合同研究大会 広島2023
(2023年10月26・27日)

研究テーマ

チームアプローチによりADL自立に至った症例 ～入浴獲得に焦点を当てて～

病院名

医療法人社団健育会 石巻健育会病院

演者

○村上理菜(作業療法士) 種市良盛(医師) 佐藤駿(理学療法士)
小野寺晶(言語聴覚士) 西條亜紀(看護師) 鈴木淳史(管理栄養士)

概要

【はじめに】

くも膜下出血後にADL全介助となった症例を担当した。

チームアプローチによりフリーハンド歩行やADL自立となり自宅退院したが、その中でも入浴動作に焦点を当てて介入したため報告する。

【症例紹介】

60代女性。長男と2人暮らし。

病前生活は自立し、仕事もしていた。

趣味は温泉。

X年Y月にくも膜下出血を発症。2か月後に当院へ転院。

入院時ADL全介助でFIM46点(運動15点、認知31点)。

温泉に入りたい希望も聞かれた。

【経過】

起立性低血圧・眩暈が生じていたため、チーム間で情報共有し、OTでは身体機能の改善に合わせ、ADL獲得を図った。

症例と目標や希望の共有を行う中で「温泉に入りたい」という希望が聞かれたが、血圧低下や病棟での入浴も獲得していないため、まずは自宅での入浴動作獲得を共有目標とした。

徐々に血圧も安定し、洗髪動作や跨ぎ動作を練習。5週間後には介助下でシャワー浴、7週間後には浴槽内入浴を開始した。

【結果】

ADL自立しFIMも119点(運動86点、認知33点)まで改善し、入院約5ヶ月後に自宅退院。

入浴は洗体時にシャワーチェアを使用し、跨ぎは立位経由にて行えるようになり、疲労や血圧など自身の身体状況に応じた入浴が可能になった。

【考察】

本人の目標を明確化し、回復状況や血圧に応じ担当間で情報共有しながら進めたことで本人の希望に繋がられるように移動手段やADLを獲得することが出来、共有目標である自宅での入浴動作の獲得に繋げることが出来たと考える。

【考察】

本人の目標を明確化し、回復状況や血圧に応じ担当間で情報共有しながら進めたことで本人の希望に繋がられるように移動手段やADLを獲得することが出来、共有目標である自宅での入浴動作の獲得に繋げることが出来たと考える。